

の準備不足を反省しています。

ひきつづいて行われた総会では、研究会の将来をめぐって、いつも以上に盛んな討議が交わされました。

懇親会では、格安の予算の割に食べきれないほどの料理が次から次へと出されて、皆さんに満足していただけたと思います。その後も、一部の部屋では夜遅くまで話が尽きなかったようです。

二日目は天候にめぐまれ、恒例の記念写真撮影の後、バスによる現地観察会が行われ、午前中は山中湖を2ヶ所と忍野町役場近くの渋川、忍野八海を観察、忍野富士急ホテルで昼食をとり、午後は桂川で観察しました。

山中湖畔でのジャズコンサートによる交通渋滞のため、予定していた北東岸の観察地(フジマリモ生育地)には行けませんでした。地元の杉浦氏の御案内のおかげで、予定していたより多様な種類を観察できました。ウキクサ類があると、別府敏夫氏を困らせて種類の見分け方や花の観察など「ウキクサ教室」となったのが印象に残りました。

日程の関係から、杉浦氏の自宅にある生きたマリモのコレクションと、三島市・柿田川の(ミシマ)バイカモをコースにいれられなかったのが残念でした。柿田川には、帰途立ち寄られた方もおられたようです。

全国集会には、数多くの会員と知り合ったり、直接意見を交換したり、見分け方を学べたりとメリットがたくさんあります。今回は参加できなかった方も、次回以降の集会には、ぜひ御出席ください。

観察植物リスト

1. 山中湖(山中湖村役場前)

コカナダモ、センニンモ、セキシウモ、クロモ、ヒルムシロ属の雑種(センニンモ×エビモ、未記載)

2. 山中湖(東京電力流出口付近)

1と同じ。いずれも流れ藻。

3. 渋川(忍野町役場付近)

オオフサモ、コカナダモ、ナガエミクリ、イボウキクサ、コウキクサ、ヤナギモ

4. 忍野八海

〔湧池〕ナガエミクリ(沈水葉)、エビモ、バイカモ、セリ

〔鏡ヶ池〕アオウキクサ、コウキクサ

〔菖蒲池〕ヨシ、アオウキクサ、ショウブ、キショウブ

〔濁池〕オオアウキクサ、イボウキクサ、コウキクサ、

キショウブ、オランダガラシ、ナガエミクリ、コカナダモ、バイカモ(開花)、ヨシ、クサヨシ

5. 桂川(忍野富士急ホテル前、山中湖からの流出河川) コカナダモ、バイカモ、ヨシ

他に、忍野富士急ホテル庭園内の流れでもイボウキクサ(花)が観察された。

(文責 林 浩二)

〔総会報告〕

I. 報告事項

1. 会員状況(1991.8~1992.7)

新入会	28名
退会	5名
除名	6名
現会員数	286名

2. 1991年度事業報告

会報発行 No.43~No.45 (計 102ページ)

第13回全国集会 8月2~3日 於 神戸市
(会報 45号参照)

3. 1991年度会計報告

《収入》

前年度繰越金	177,146
会費	688,000
別刷代金	68,200
バックナンバー売上	71,000
利息	16,766
合計	1,021,112

《支出》

会費印刷費	993,950
会報発送費	152,985
通信費(切手代)	37,623
文具類	3,680
全国集会補助	12,300
合計	1,200,538
翌年度繰越	-179,426

4. その他

第15回国際植物科学会議(1993.8.28-9.3, 横浜)を協賛することになった。

II. 審議事項

1. 1992年度事業

会報発行 46号(4月)、47号(8月)、48号(

12月)

全国集会 8月21～22日 山中湖

2. 役員改選 (1993～1994年度役員)

会 長 加崎英男

副 会 長 桜井善雄・浜島繁隆

幹 事 沖 陽子・尾崎富衛 (新任)・角野
康郎・国井秀伸・下田路子・田中
修・納田美也・林 浩二・別府敏夫・
星 一彰 (アイウ順)

名誉会長 原田市太郎

名誉顧問 大滝末男

3. 会費値上げについて

来年度より会費を4,000円 (学生会員は2,000円) とすることが可決された。あわせて、今後、安定した会の運営のために、普通会员とは別に「維持会員」、「賛助会員」、「団体会員」などの制度を設けることについても検討することになった。

4. 来年度全国集会開催地について

西日本の適当な場所ということで事務局に折衝を
一任 (交渉の結果、滋賀県で行なうことに決定)。

(文責 角野康郎)

○第15回全国集会のご案内

日時 1993年7月24～25日

場所 滋賀県大津市 琵琶湖研究所、他

詳細ならびに参加申込については、次号の会報でご案内します。

○会費納入のお願い

1993年度会費 (4,000円、学生2,000円) の納入をお願いします。会費が変更になっていますのでご注意ください。また、退会される方は必ず事務局までご一報下さい。

送金先 郵便振替 神戸7-13829

水草研究会

〔編集後記〕

会報の発行が遅れて申し訳ありません。さて、今回は夏の全国集会の講演を中心に編集しました。今回の発表は話題が多岐にわたりましたが、その一端がうかがえると思います。なお、国井さんのお話は次号に掲載させていただきます。

この後記を書いているのは、実は1月10日なのですが、今年には水草をめぐる状況がどうなるだろうかと思いをめぐらせています。ここ2、3年、水辺環境への関心に加え、絶滅危惧種の問題のクローズアップで水草にもずいぶん日があたるようになったと思いますが、上滑りにならないためにもここで何か、という気がします。

次号は4月発行予定ですので、原稿をお寄せいただく方は2月中にお願いできると幸いです。

(角野)